

平成29年度 港区立麻布幼稚園経営計画

港区立麻布幼稚園

園長 大島 美知代

I はじめに

本区では乳幼児人口の増加に伴い、様々な対応を進めている。本園は今年度3学期から来年度にかけて園庭において増築工事が始まる。本園は今年度も3歳児学級定員が3名増え、25名となった。4、5歳児にも進級時に4歳児に8名、5歳児に1名新入園児を迎え、在籍園児数が増加した。平成25年度に3歳児保育が開始してから現在まで本園の在籍園児数は増加を続けている。通園地域は芝、御成門、三田、虎の門地区、海岸地区から園児が通ってきており、通園範囲は広がる傾向にある。昨年度2学期から開始した「子育てサポート保育」は軌道に乗り、今年度は年度初めから4、5歳児の利用を開始した。保護者の「子育てサポート保育」への期待も高まっている。

本園は3、4、5歳児単学級園である。今年度当初に1名の正規主任教諭が産休に入り、3学級担任の全員が産育休代替教員となった。産育休代替教員は他区での経験のある教員を任用することができた。これらの教員の豊富な指導力、教材選択力等を本園の実態、港区で推進している教育に合わせて教育を行っている。園児の入園前の育ちや家庭環境や、家庭からの要望も多岐にわたってきている。園児を取り巻く状況は様々であるが本園では港区の公立幼稚園の使命として本園の教育の質を向上させていかななくてはならない。地域・保護者からの期待に応え、園児も保護者も共に育つ幼稚園経営を行っていききたい。

平成30年4月には新幼稚園教育要領が実施される。保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針も同時に改訂され、3歳以上の幼児教育について共通の指導内容が確保されるようになる。平成18年の教育基本法の改正で「幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うものである」こと明文化され、翌年には学校教育法の中に学校の規定順の最初に幼稚園が置かれ、幼稚園教育の目標が記載され、学校教育の始まりであることが明示された。今、幼児教育は注目され、「幼児期の教育はこれからの日本を背負う人間としての成長するための基礎基本となること」を幼児教育に携わる我々はしっかりと認識し、その職責を果たしていかななくてはならない。

今年度も年度初めの保護者会にて幼稚園での役割と共に育児に携わる保護者にも園児の成長を支える両輪の1つを担っていることを伝えた。保護者と幼稚園は共同体として連携し、園児を確実に成長させる教育活動を推進していきたい。今年度も昨年度に続き、より良い協力体制をつくっていききたい。

○心が通い合う幼稚園

○みんなが育つ幼稚園

をつくりたい。

<信頼・学び合い・育成 >

II 目指す幼稚園

「教育の港区」を実現するための基本姿勢 区長所信表明から「子どもたちを健やかにはぐくむまちへの挑戦」

☆安心して子育てができる保育環境の実現

☆子どもたちの未来を支える質の高い教育環境の実現

☆すべての子どもと家庭を見守り続けるまちの実現 を念頭に置き、本園では、

- 子どもたちが安全で安心して過ごすことができる学校・園づくり
- 子どもたちが生き生きと楽しく学び、自分に自信をもてることがいっぱいある学校・園づくり
- 子どもたちがのびのびと自分を出し、心豊かに成長することを支え、温かく見守る保護者を支援する学校・園づくり

(1) 目指す幼児像（教育目標）

幼児期は生涯にわたる生活や学びの基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、自ら考え、行動できる人間性豊かな幼児の育成を目指す。

○ げんきな子 ○ やさしい子 ○ かんがえる子

(2) 目指す幼稚園 キーワード 安全・安心・つながり・学び合い

目指す幼稚園に対して教職員の心構え、動きを太字で示す

○いつ、どんな時も安全で安心な幼稚園

⇒危機に対する鋭敏な予測、適宜声のかけ合い、共通に素早く対応

○幼児が人や物と関わり、心身共に豊かに育つ幼稚園

⇒適切な環境構成、教材選択、幼児の実態把握、適切な指導方法

○教師が互いに学び合い、高め合って教育を推進する幼稚園

⇒計画的な仕事、学級の戦略、社会的使命、学級の育ち、園の育ち

○保護者が子育てを楽しみ、親として育ち合う幼稚園

⇒保護者に寄り添う心・態度、分かち合う心

○子どもたちの成長のために、幼稚園と家庭が伝え合い、高め合う体制のある幼稚園

⇒気持ちのよい挨拶、相手の話を傾聴、丁寧な説明、プロの教師としての意見

○地域や同じ地区の保育園、小・中学校と適切な連携を図り、教員の資質向上を図る幼稚園

⇒向上心、自己決断、学びへの関心、

(3) 中期的な経営目標と方策

○教師の自立・協働・つながりと実践・評価と改善 (太字は今年度)

自立＝教師自身の良さを自分が認め、保育に生かせるよう、準備を周到に進め、計画を立て、先の見通しをもって仕事をし、時間を有効に使う。自分の力の苦手な分野、不足している技能等の自己課題に挑み、労を惜しまず、自分で改善方法を考え、研修し、実践する。自己を高める努力を惜しまずに。自分の考えを相手に伝える技能を高める。また、相手の考えを理解し、素直に受け止め、改善につなげる。

・幼児との心のつながりを大切にし、日常の遊びの充実が園行事につながるよう、日々の幼児との心の触れ合いや遊びの広がり、深まりを目指し、丁寧に準備し、計画的に保育を行う。

・自分の学級経営の方針をはっきりと示し、講師やアシスタントとよりよく効果に連携し、一人一人の指導や学級全体の把握を責任もって行う。

・幼児が安心、安全な園生活を送れるように、視野を広く、先を見通し、的確な予測に努め、あらゆる危険を排除する。幼児自身にも危険回避や状況把握の力の育成を図る。

協働＝情報交換の機会を自らつくり、教師が全園児の育ちに関与する。教師同士も考えを伝え合う。

・今年度は打合せ、会議を短時間と区切り、必要時にもち、共通理解を図り、園務分掌も責任をもって担当が全員に働きかけ、小さいながら組織として園の運営に関与する。

・園内研究会では、自己課題、園の課題解決のため中核となる遊びを「運動遊び」を窓口として研究を行う。

・3年保育の利点を活用し、異年齢との関わりを工夫し、着実な成果をあげる。自分の立場、役割を明確にし、それぞれが育ち合う交流活動を展開する。記録に残し、保護者、地域にも周知する。

・地域の保育園児や併設小学校、同アカデミーの中学校との交流を計画的に実施し、幼児同士の関わりや活動内容の充実を目指す。交流の前後に話し合い、幼児期の教育について考える機会とする。幼稚園の育ちをそれぞれの学年で押さえ3歳児、4歳児の積み重ねが5歳児になるように、自分たちの教育活動とその成果を見直す機会とする。

つながりと実践

今年度は「保幼小合同研究会」で保育を公開し、幼児期の指導と小学校のカリキュラムの連携について公開する。スタートカリキュラムへの連続性について学び合う。今年度も同アカデミーの中学校生徒の職場体験と幼児との関わりの授業を行う。また、保護者の力を保育に活用し、幼児だけでなく、保護者にも直接かかわる体験から幼児期の教育の大切さを理解していただく機会にする。

- ・保護者の保育への参画を開始する。ボランティアの活動、エコの活動、行事への参加を中心に、保護者が自分たちの力を発揮し、子どもの遊びや生活の充実につながる事が感じられるようにする。保護者が様々な形で幼児に関わり、共に遊び、役に立つことが幼児理解や幼稚園教育の理解につながり、家庭教育の大切さ、子育ての楽しさに気付く機会となるようにする。
- ・地域の方々の力を教育に生かせる機会（盆踊り、餅つきなど）を意図的に設定し、幼児の遊びや生活を豊かにする取り組みを計画、実施する。
- ・麻布総合支所との連携、教育委員会との連携を図る。幼稚園が進める教育をより良く推進するために広い視野と先の周到な計画立案をもとに、地域、教育委員会との連携を太くする。必要な情報を得ることで教職員自らの考え、その上で必要な策を熟考し、実践につなげる。

評価と改善

- ・学校評議員は港区立幼稚園元園長と保育園長に加えて、併設小学校長、中学校長をお願いし、幼稚園から小学校・中学校への教育の連続性を協議する。
- ・アカデミー研究の研究主題、本園の研究主題の共通化を図り、地域の子どもたちの育ちを検証する。それと同時に幼稚園の教育と小、中学校のカリキュラムの連続性を常に考え、保育する。これらの取り組みや実践についての評価を行い、その評価をもとに次の取り組みにつなげる。
- ・園内研究会では事例の分析考察、検証保育を行うことで教員同士、的確な評価を行えるようにする。
- ・学期末の保護者との面談、年度末の保護者評価結果からは、評価だけでなく、評価の根拠を伺い、自分たちの指導の改善の方策を適切に実践につなげる。

今後の中期の計画 平成29年度～31年度

- 園舎増築に動きが本格化すると思われる。園児の生活や遊びが安全で安心に行えるような環境づくりに努める。園庭に変わる遊び場、体を動かせる遊びの工夫を行う。
- 在園児増加も予想される。学級の育ちを確実にするとともに、異年齢交流や異校種との連携活動を継続し大勢の中でも一人一人がしっかりと自分を出し、自信をもって活動できる環境、活動を研究し、指導計画を作成する。
- 正規教員の戻りに伴い、新たな教師集団になる。今までの培ってきた教育活動の流れ、アカデミー連携教育の成果をつなげていく努力を必要とする。平成31年度の新しい増築の園舎を安全、安心に連携よく教育活動が展開できるよう、環境上の課題を解決していく。教育に関わる場所の面積が広がるので教職員はそのことを意識して教育できるよう、準備を進める。

(4) 短期的目標と具体的方策

- 教員の協働体制を強化し、明確に考えをもち、かつ柔軟な対応をしながら園の教育を推進する。

☆指導力向上☆

- ①体験活動 ②コミュニケーション力の指導 ③「考える」活動、遊びや生活の中で「考える」力の指導の重視 ④体を楽しく動かし、意欲的に活動できるような活動の指導

☆保護者との連携☆

①幼稚園の生活の決まりを守れるために保護者としての動き ②幼稚園の活動、遊びを楽しく経験できるための保護者の心得 ③子どもとのより良い関わり方、考え方 ④本園の子どもたちの育ちを考えたいうでの保護者の対応 ⑤幼稚園修了から小学校、中学校、そして大人になる先の見通しをもった上でより良い子どもとの関わり方 を教員も共に学ぶ。

★保護者、地域に信頼され、心を通わせ、活気のある幼稚園

教職員と家庭・地域が力を合わせ、「みんなが育つ」教育活動を推進する。